| 群教セ | G01 － 03 |
| --- | --- |
| | 平24.246集 |

# 中学校国語科説明的文章における筆者の主張について自分の考えをもつ力を育成する指導の工夫

## ── 知識や体験と関連付けながら思考をまとめる三段階学習を通して ──

長期研修員　　横谷　隆

《研究の概要》

本研究は、中学校国語科説明的文章指導において、筆者の主張について自分の考えをもつ力の育成をねらいとしたものである。具体的には、文章を正確に読み取る基礎的学習後、発展的学習として、自分の知識や体験を根拠に肯定及び否定の両立場から考えたことを書く第一段階、両立場の根拠を比べ自分の立場を選択する第二段階、筆者の主張について考えと根拠をまとめる第三段階を設定し、自分の考えをもつ力を育成できたかを検証した。

**キーワード**　【国語－中　説明的文章　自分の考え　知識や体験と関連　三段階学習】

### Ⅰ　主題設定の理由

中学校学習指導要領解説国語編（文部科学省）では、児童生徒の課題として「『思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題，知識・技能を活用する問題に課題』が見られる」と挙げている。また、その課題の改善に向け、「言葉を通して的確に理解し，論理的に思考し表現する能力，互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや，我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する」としている。

「平成24年度全国学力・学習状況調査」結果分析資料（群馬県教育委員会）では、中学校国語科の課題の一つとして「具体的な例を挙げて、自分の考えをまとめて書くこと」を、指導のポイントとして「自分の経験を根拠にして、自分の考えをまとめさせ」ることを挙げている。また、「はばたく群馬の指導プラン」では、国語科の課題として、「目的や意図に応じて説明的な文章の内容を読み取ること」と「文章の特徴や表現の仕方について考えること」という二つの「読むこと」の課題と、「自分の考えや伝えるべき内容を相手や目的に応じて表現すること」という「話すこと」と「書くこと」を合わせた表現することの課題を示した。これらから、群馬県全体としても、書かれている情報を正確に読み取り、それを基に自分の考えを表現する力の育成が課題であると言える。

文章に書かれていることについて自分の考えを表現するためには、まず、文章に書かれていることを正確に読み取り、その上で自分の考えをもつことが必要である。しかし、自分の考えを表現することが苦手な生徒にとって、この過程をこなすことは困難であることが予想される。原因として、文章を正確に読み取ることに精一杯で自分の考えをもつところまで学習が進まなかったり、文章を正確に読み取れたとしても、文章に書かれていることを基に、自分の知識や体験を交えながら自分の考えを表現する方法が分からなかったりすることなどが挙げられる。

そこで本研究では、筆者の主張が論理的に述べられている説明的文章を教材として、自分の考えを表現する言語活動を設定し、読み取った内容について知識や体験と関連付けながら思考をまとめる三段階学習を行うことにより、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を計画的にはぐくみ、筆者の主張について自分の考えをもつ力を育成できると考え、本主題を設定した。

### Ⅱ　研究のねらい

中学校国語科説明的文章指導において、筆者の主張と自分の知識や体験とを関連付けながら思考をまとめる三段階学習を取り入れれば、筆者の主張について自分の考えをもつ力を育成できることを、実践を通して明らかにする。

## Ⅲ　研究の見通し

１　視野を広げる段階において、筆者の主張について肯定的な考えと否定的な考えの両方について考え、それぞれの根拠として自分の知識や体験をワークシートに記述し、それを基にグループで意見交流をすれば、様々な角度から文章の内容を検討することができ、視野を広げることができるであろう。

２　立場を選択する段階において、書き出した肯定、否定のどちらが自分の考えに近いかを暫定的に選択した上でその理由をワークシートに記述し、それを基にグループで意見交流をすれば、自分の立場をより客観的にとらえることができ、根拠を明確にした自分の立場を選択することができるであろう。

３　考えをもつ段階において、選択した立場とその根拠となる知識や体験をワークシートに記述し、それを基に説明する活動を取り入れれば、思考の筋道を整理することができ、知識や体験と関連付けた自分の考えをもつことができるであろう。

## Ⅳ　研究の内容

### １　自分の考えをもつ力とは

本研究における「自分の考えをもつ力」とは、「筆者の主張について根拠を明確にした上で考えを構築する力」のことである。また、「根拠を明確にする」とは、「これまで身に付けてきた知識や様々な体験と関連付けて考えの理由をはっきりさせる」ことである。

中学校学習指導要領解説国語編〔第２章第２節２（３）「Ｃ読むこと」〕には、自分の考えの形成に関して二つの系統の指導事項が示されている。一つは「文章の構成や展開，表現の仕方等，文章の形式について自分の考えをもつこと」、もう一つは「文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもつこと」であり、前者は形式について、後者は内容について「書かれていることを読んで自分の考えをもつこと」が示されているととらえた（表１）。本研究では、後者にポイントを置き、説明的文章を教材として、内容について自分の考えをもつ力を育成する指導の工夫を目指した。なお、説明的文章における文章の内容とは、書き手のものの見方や考え方、つまり筆者の主張とする。

表１　中学校学習指導要領解説国語編（国語科の内容「Ｃ読むこと」　自分の考えの形成　二つの系統）

| | 第1学年 | 第2学年 | 第3学年 |
|---|---|---|---|
| 形式 | エ　文章の構成や展開，表現の特徴について，自分の考えをもつこと。 | ウ　文章の構成や展開，表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをまとめること。 | ウ　文章を読み比べるなどして，構成や展開，表現の仕方について評価すること。 |
| 内容 | オ　文章に表れているものの見方や考え方をとらえ，自分のものの見方や考え方を広くすること。 | エ　文章に表れているものの見方や考え方について，知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。 | エ　文章を読んで人間，社会，自然などについて考え，自分の意見をもつこと。 |

### ２　知識や体験と関連付けるとは

中学校学習指導要領解説国語編（第３章第２節第２学年「Ｃ読むこと」）には、「『知識や体験と関連付け』るとは，好悪などの感想にとどまらず，これまでに身に付けてきた知識や様々な体験と関連付けて，賛否を明らかにしたり，問題点を指摘したりするなど，具体的なものに基づいて考えを形成することである。自分のものの見方や考え方を深めていくためには，文章に示されている書き手のものの見方や考え方を自分の考えと対比したり置き換えたりして，読み手が自分の問題としてとらえることが重要である」とある。そこで、説明的文章における筆者の主張について自分の考えをもつために、筆者の主張を正確に読み取った上で、肯定、否定のどちらの立場であるかを選択させる機会を確保することとした。その際、知識や体験と関連付けて根拠とし、自分の問題として考えることが大切であると考える。本研究では、肯定を「共感」、否定を「疑問」という文言に改めることで生徒にとって分かりやすくな

るよう配慮し、授業中における各立場やワークシート上の表現を「共感」及び「疑問」に統一した。

なお、これまでに身に付けてきた知識とは、学校で学習したことだけでなく、書籍や新聞、テレビ、ラジオ等から得たものとし、様々な体験とは、学校生活に限らず、地域や家庭の生活で体験したことも含むものとする。

### ３　思考をまとめる三段階学習について

筆者の主張について自分の考えをもつためには、まず文章を正確に読み、次に読み取った筆者の主張について根拠を明確にして自分の考えをまとめるといった過程が考えられる。しかし、多くの場合、文章を正確に読むために時間をかけてしまい、自分の考えをまとめるための時間が確保できない状況が認められる。そこで本研究では、文章を正確に読む学習を基礎的学習（以下、「基礎」）、自分の考えをもつ学習を発展的学習（以下、「発展」）とし、後者について三段階に分けて展開する学習を構想した。

三段階とは、①「視野を広げる」②「立場を選択する」③「考えをもつ」の三つの段階である（図１）。各段階における学習活動の概要は以下のとおりである。まず、①「視野を広げる」では、自分の考えをもつ過程であえて不安定な状況を作る活動、具体的には、筆者の主張について共感できる箇所と疑問に思う箇所とそれぞれの根拠を探し、二つの立場から教材をとらえる活動を行う。次に、②「立場を選択する」では、共感と疑問の根拠を比べ自分の立場を暫定的に選択し、自分の立ち位置を決めることで、より前向きに自分の考えをまとめ、その後グループで意見交流することを通して、選択する立場を確定する。そして、③「考えをもつ」では、自分の考えを分かりやすく説明できるように、選択した立場について根拠をまとめ、思考の筋道を整理する。単元を貫く言語活動としては、自分の考えを相手に説明する活動を設定し、自分の考えをもつ力を育成したいと考えた。これらの段階を踏むことにより、生徒それぞれが考えをもつとともに、中学校において本年度から全面実施となった学習指導要領でも強調される「思考力・判断力・表現力」の育成にも結び付けることを視野に入れている。教師と生徒が段階ごとに学習の進み具合を確認しながら、多様な立場から物事をとらえ考えを巡らせる機会を通じて思考力を、根拠や立場を選択する機会を通じて判断力を、そして意見交流の機会を通じて表現力を養うことができると考えた。

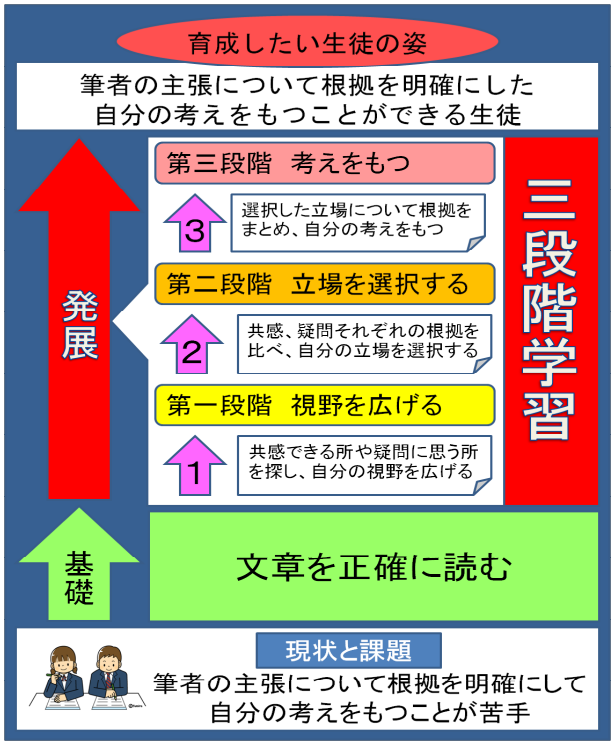



図１　研究構想図

なお、この三段階学習は３年間の繰り返しにより考えをもつ力を高めることを想定している。生徒が身近な問題として考えることができる内容の単元を計画的に設定し、各学年における指導の重点を押さえながら学年進行で「基礎」と「発展」を繰り返すことにより、考えをもつ力を高められると考えた。なお、各学年の指導の重点として、１学年「筆者の主張に共感したり疑問をもったりする」、２学年「根拠を明確にして自分の立場を選択する」、３学年「根拠を補強・修正した考えをもつ」を設定した（図２）。

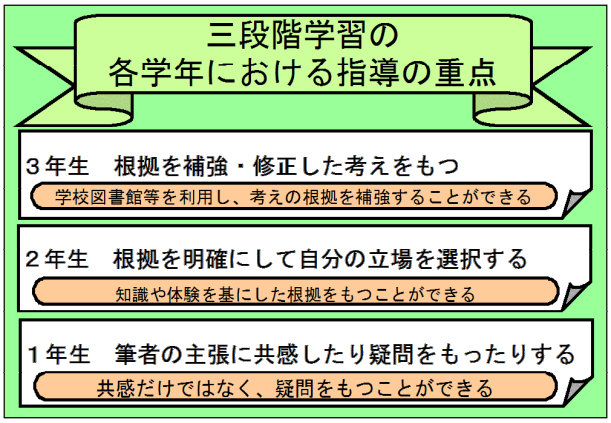



図２　各学年の指導の重点

## Ⅴ　研究の計画と方法

### 1　研究授業実践の概要

| | |
|---|---|
| 対　　象 | 研究協力校　中学校第２学年　99名（３クラス） |
| 実践期間 | 平成24年10月22日～10月31日　６時間 |
| 題　材　名 | 「ガイアの知性」（伝え合う言葉　中学国語２　教育出版） |
| 題材の目標 | 筆者の主張について、自分の知識や体験と関連付けながら考えをまとめる。 |

### 2　抽出生徒

| 生徒Ａ | 生徒Ｂ | 生徒Ｃ |
|---|---|---|
| 根拠のある自分の考えをもつことはできるが、根拠が明確でない場合がある。 | 自分の考えをもつことはできるが、根拠を示すことができない。 | 自分の考えをもつことができない。 |

### 3　検証計画

| 研究の仮説 | 検証の観点 | | 検証の方法 |
|---|---|---|---|
| 中学校国語科説明的文章の学習において、筆者の主張と自分の知識や体験と関連付けながら思考をまとめる三段階学習を取り入れることで、自分の考えをもつ力が育成されるであろう。 | **見通し1** | 視野を広げる段階において、筆者の主張について肯定的な考えと否定的な考えの両方について考え、それぞれの根拠として自分の知識や体験をワークシートに記述し、それを基にグループで意見交流をすることは、様々な角度から文章の内容を検討し、視野を広げることに有効であったか。 | ・交流活動の観察（グループ）<br>・ワークシートの記述<br>・自己評価 |
| | **見通し2** | 立場を選択する段階において、書き出した肯定、否定のどちらが自分の考えに近いかを暫定的に選択した上でその理由をワークシートに記述し、それを基にグループで意見交流をすることは、自分の立場をより客観的にとらえ、根拠を明確にした自分の立場を選択することに有効であったか。 | ・交流活動の観察（グループ）<br>・ワークシートの記述<br>・自己評価 |
| | **見通し3** | 考えをもつ段階において、選択した立場とその根拠となる知識や体験をワークシートに記述し、それを基に説明する活動を取り入れることは、思考の筋道を整理し、知識や体験と関連付けた自分の考えをもつことに有効であったか。 | ・交流活動の観察（グループ）<br>・ワークシートの記述<br>・自己評価 |

### 4　評価規準

| 国語への関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語についての知識・理解・技能 |
|---|---|---|
| 筆者の主張について共感できる箇所や疑問に思う箇所について考え、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。 | 筆者の主張について、自分の知識や体験と関連付けながら考えをもっている。 | キーワードに着目し、その語句が表す意味を理解し、語彙を豊かにしている。 |

### 5　単元の指導計画（全６時間）

| | 時 | 学習活動 | 支援及び留意点 | 評価項目【方法】 |
|---|---|---|---|---|
| **基礎（正確に読む）** | 1 | **第一大段落を読み、話題提示の内容をまとめよう。**<br>・第一大段落を読んで、話題提示の内容をまとめる。 | ・筆者が読者にこれから伝えようとしていることを確認してから内容についてまとめさせる。 | ・筆者が話題を提示している内容をまとめている。【ワークシート①】 |
| | 2 | **第二大段落を読み、具体例の内容を読み取ろう。**<br>・第二大段落の中から三つの具体例を探し、それぞれの内容を読み取り、まとめる。 | ・ワークシートに入る言葉を教科書から探させて、内容を読み取らせる。 | ・「鯨」「象」「人」それぞれの話をまとめている。【ワークシート②】 |
| | 3 | **第三大段落を読み、筆者の主張をまとめよう。**<br>・第三大段落を読んで、筆者の主張についてまとめる。 | ・キーワードになる「○○的な知性」の意味を確認してからまとめさせる。 | ・筆者の主張について読み取っている。【ワークシート③】 |

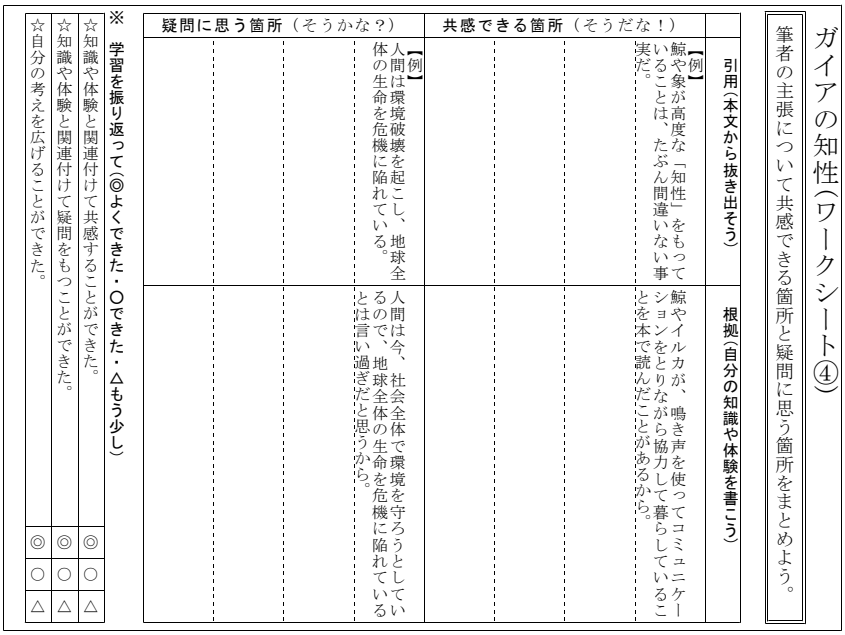
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 発展（自分の考えをもつ） | 4（見通し1） | 筆者の主張について共感できる箇所と疑問に思う箇所をまとめよう。<br>・筆者の主張について共感できる箇所と疑問に思う箇所を探し、それぞれの根拠を自分の知識や体験を基にして書く。 | ・共感できる箇所、疑問に思う箇所とそれぞれの根拠について、参考となる例を示し、一つ以上見付けられるようにさせる。 | ・筆者の主張について共感できる箇所と疑問に思う箇所を自分の知識や体験を根拠にワークシートにそれぞれ書き出し、自分の考えを広げようとしている。<br>【ワークシート④】<br>【交流】【自己評価】 |
| | | ・グループで発表し合い、自分に必要な根拠を補強する。 | ・他の人の根拠を参考に自分のワークシートを完成させる。 | |
| | 5（見通し2） | 「ガイアの知性」を学習して考えたことをまとめよう。<br>・共感した箇所と疑問に思う箇所、それぞれの根拠を比較することで、自分の考えをまとめ、ワークシートに書く。 | ・「共感」と「疑問」のどちらの立場が自分に近いか考えさせ、自分の考えをまとめさせる。 | ・自分の立場を選択して考えをワークシートに書いている。<br>【ワークシート⑤】<br>【交流】【自己評価】 |
| | | ・グループで交流し、自分の考えを見直す。 | ・根拠を発表させ合い、自分の考えを深めさせる。 | |
| | 6（見通し3） | 「ガイアの知性」を学習して考えたことを友達に説明しよう。<br>・自分の考えを双括型の文章構成で書く。 | ・双括型で構成されたワークシートに自分の考えと根拠を記入させる。 | ・筆者の主張について根拠を明確にした自分の考えをまとめている。<br>【ワークシート⑥】<br>【交流】【自己評価】 |
| | | ・グループで自分の考えを説明し合う。 | ・ワークシートに書いた自分の考えを基に伝える相手を意識させて説明させる。 | |
| | | ・これまでの学習を振り返り、まとめをする。 | ・単元の目標を確認させ、身に付いた力について自己評価させる。 | |

## Ⅵ　研究の結果と考察

### 1　視野を広げる段階において、筆者の主張について肯定的な考えと否定的な考えの両方について考え、それぞれの根拠として自分の知識や体験をワークシートに記述し、それを基にグループで意見交流をすることは、様々な角度から文章の内容を検討し、視野を広げることに有効であったか。（見通し1）

#### (1)　全体の記述内容から

筆者の主張について自分の考えをもつための第一段階として、肯定と否定の両方の立場で文章を読ませ、ワークシート④（図３）にまとめさせた。また、生徒にとって分かりやすい表現にするために肯定と否定という言葉を、共感（そうだな！）と疑問(そうかな？)とした。まず、本文の中から共感できる箇所と疑問に思う箇所を探させ、次に、引用箇所とそこを選んだ根拠をワークシートに記入させた。根拠としては、自分の知識や体験を考えるよう


ガイアの知性（ワークシート④）

筆者の主張について共感できる箇所と疑問に思う箇所をまとめよう。

| 共感できる箇所（そうだな！） | | | 疑問に思う箇所（そうかな？） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 引用（本文から抜き出そう） | 根拠（自分の知識や体験を書こう） | | 引用（本文から抜き出そう） | 根拠（自分の知識や体験を書こう） | | |
| 【例】鯨や象が高度な「知性」をもっていることは、たぶん間違いない事実だ。 | 鯨やイルカが、鳴き声を使ってコミュニケーションをとりながら協力して暮らしていることを本で読んだことがあるから。 | | 【例】人間は環境破壊を起こし、地球全体の生命を危機に陥れている。 | 人間は今、社会全体で環境を守ろうとしているので、地球全体の生命を危機に陥れているとは言い過ぎだと思うから。 | | |

※　学習を振り返って（◎よくできた・○できた・△もう少し）

| | | |
|---|---|---|
| ☆知識や体験と関連付けて共感することができた。 | ◎ | ○ | △ |
| ☆知識や体験と関連付けて疑問をもつことができた。 | ◎ | ○ | △ |
| ☆自分の考えを広げることができた。 | ◎ | ○ | △ |

図３　ワークシート④

指示した。また、グループで意見交流をさせることで、根拠の補強や記述量の増加を図った。

図４に示すとおり、共感できる箇所の記述については、95％の生徒が書き出していた。根拠については、89％の生徒が記述しており、その内の22％の生徒は具体的な知識や体験について記述していた。また、疑問に思う箇所の記述については、96％の生徒が書き出していた。根拠については、85％の生徒が記述しており、その内の18％の生徒は具体的な知識や体験について記述していた。

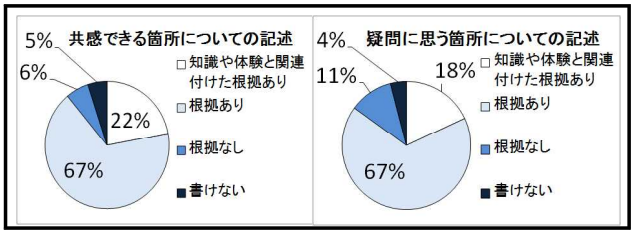



図４　ワークシートの記述

知識や体験と関連付けて根拠を明確にすることは、この段階では難しく、共感できる箇所で22％、疑問に思う箇所で18％と少なかった。教科書に書かれている内容やグループでの意見交換で出された友達の発表を根拠にしながら記述している生徒が多く、知識を補強する資料や参考となる体験の具体例を示す必要があると考える。

生徒の自己評価を見ると、90％近くの生徒が共感することや疑問をもつことを通して、自分の考え方を広げることができたと感じている（図５）。

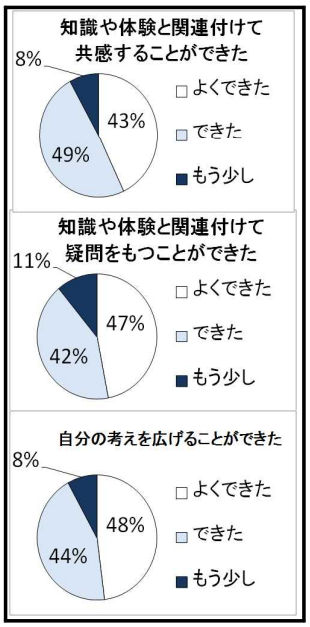



図５　自己評価

以上から、この段階では知識や体験と関連付けて根拠を明確にするのはまだ難しいものの、筆者の主張について共感できる箇所と疑問に思う箇所とそれぞれの根拠を探し、二つの立場で考えさせたり意見交流させたりすることは、視野を広げることに有効であったと考える。

### (2)　抽出生徒の記述内容から

抽出生徒全員が共感できる箇所、疑問に思う箇所をそれぞれ一つ以上ワークシートに記述していた。グループでの意見交流後、生徒Ａ、Ｂは疑問に思う箇所、生徒Ｃは共感できる箇所について記述を一つ増やすことができた（表２、３・**ゴシック体**）。

表２　ワークシート④における共感できる箇所（そうだな！）についての記述

| | 引用 | 根拠 |
|---|---|---|
| A | 現代人の中で、鯨や象が自分たちに匹敵する「知性」をもった存在である、と素直に信じられる人は、まずほとんどいないだろう。 | 自分もこの本を読む前は鯨や象が高度な「知性」をもっているなんて思っていなかったから。 |
| B | 鯨や象が、自分達と対等の「知性」をもった存在とはとても思えないのは、当然のことである。 | テレビや動物園で見る鯨や象が、学校に行ったり色々な発明をしたりする私達人間と同じ知性をもっているとは信じられないから。 |
| C | 彼ら（オルカやイルカ）は捕らわれの身になった自分の状況を、はっきり認識している、という。<br>**彼ら（オルカやイルカ）は、…この自然のもつ無限に多様で複雑な営みを、できるだけ繊細に理解し、それに適応して生きるために、その高度な「知性」を使っている。** | 本に書いてあったし、水族館のスタッフがそう言っていた。<br>**動物は、どんどん進化していくし、環境に適応して生きていくと聞いたことがある。** |

表３　ワークシート④における疑問に思う箇所（そうかな？）についての記述

| | 引用 | 根拠 |
|---|---|---|
| A | 水族館でオルカが見せてくれる「芸」のほとんどは実は人間がオルカに強制的に教えこんだものではない。<br>**すなわち、この三種（鯨と象と人）は地球上で最も高度に進化した「知性」をもった存在だということができる。** | ショーを見たときに、人がイルカの手助けをしたり教えていたりしたから。<br>**人は高度だと思うけど、鯨や象は考えてもそれを表せないから高度でないと思う。** |
| B | すなわち、この三種は、地球上で最も高度に進化した「知性」をもった存在だ、ということができる。<br>**鯨や象からさまざまなことを学ぶことによって、真の意味の「ガイアの知性」に進化する** | テレビなどで、猿は頭がいいというから、高度に進化した知性をもっているのはこの三種だけではないのではと思うから。<br>**話すことができないのにどうやって学ぶのだろうと思ったから。** |
| C | オルカのほうが、人間が求めていることを正確に理解し、自分のもっている高度な能力を、か弱い人間のレベルに合わせて制御し、…。 | 本当に正確に理解できるのか疑問に思う。 |

内容を見ると、共感できる箇所では、三人とも自分の知識や体験を根拠に書き出すことができた（表２・下線部）。また、疑問に思う箇所では、生徒Ｃの根拠は知識や体験ではないため、根拠が明確

であるとはいえないものの、生徒Ａ、Ｂの二人は自分の知識や体験を根拠に書き出していた（前頁表３・下線部）。

自己評価では、「自分の考えを広げることができた」について、生徒Ａ、Ｂは「よくできた」、生徒Ｃは「できた」としていた。

(1)(2)から、筆者の主張について肯定的な考え（共感）と否定的な考え（疑問）の両方について考え、それぞれの根拠として自分の知識や体験を記入するワークシートに記述し、それを基にグループで意見交流をすることは、一つの作品を様々な角度からとらえることができるため、考えが固定されずに視野を広げることに有効であったと考える。

**２　立場を選択する段階において、書き出した肯定、否定のどちらが自分の考えに近いかを暫定的に選択した上でその理由をワークシートに記述し、それを基にグループで意見交流をすることは、自分の立場をより客観的にとらえ、根拠を明確にした自分の立場を選択することに有効であったか。（見通し２）**

**(1)　全体の記述内容から**

筆者の主張について自分の考えをもつための第二段階として、肯定と否定の両立場を比べさせた後、立場を選択させ自分の考えをワークシート⑤に書かせた（図６）。まず、記述した共感できる箇所と疑問に思う箇所の根拠を比べさせ、自分の立場を「共感できる」「どちらかというと共感できる」「どちらかというと疑問に思う」「疑問に思う」の四つから暫定的に選択させた。次に、「自分の考え１」を書かせた後、グループでの意見交流を経て「自分の考え２」を書かせ、自分の考えを深めさせて選択する立場を確定させた。

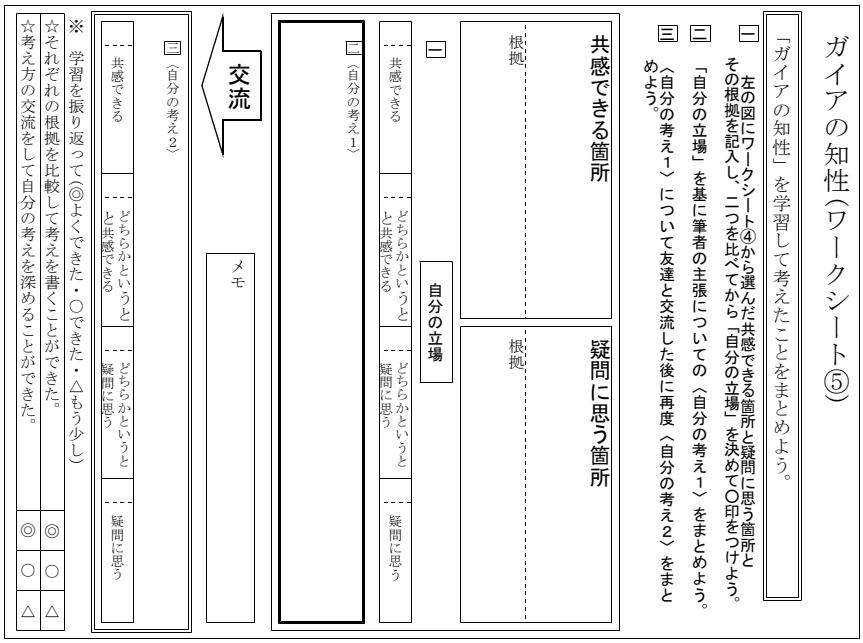



図６　ワークシート⑤

生徒は同じ立場の人の考えを聞いて自分の考えに自信をもったり、違う立場の人の考えを聞いて「自分の考え２」では立場を変えたりするなど、考えを深めていた。また、根拠についても参考にして、自分の知識や体験を振り返りながら自分の考えの根拠にしていた。

ワークシートの記述を見ると、81％の生徒が自分の知識や体験を盛り込んで根拠を明確にした自分の考えを記述することができ、記述できない生徒はいなくなった（図７）。このことから、自分の立場を意識して互いの考えを交流することで、より前向きに根拠について検討したり、他の生徒の知識や体験を盛り込んだ根拠の書き方を参考にしたりして、第一段階と比較して根拠を明確に記述できる生徒が増えたことが分かる。

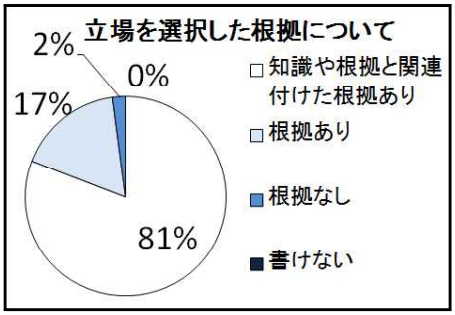



図７　ワークシートの記述

自己評価を見ると、99％の生徒が立場を選択して考えを書くことができたと回答している。また、自分の立場を暫

定的に選択して考えを書いたり、グループで考えを交流させたりしながら、選択する立場を確定することで、94％の生徒が自分の考えを深めることができたと回答している（図８）。

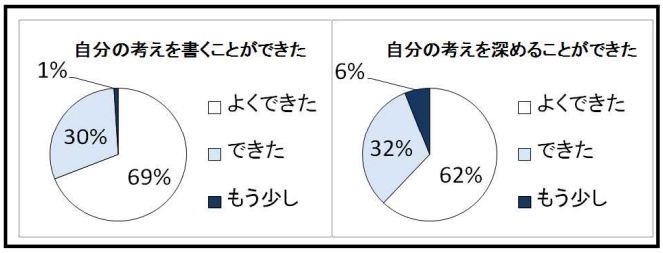



図８　自己評価

(2)　抽出生徒の記述内容から

３人とも自分の考えをワークシートに記述することができ、グループで意見交流をしていた。生徒Ａと生徒Ｂは立場を変え、生徒Ｃは立場を変えずに自分の考えを記述し選択する立場を確定していた（表４）。

表４　ワークシート⑤における〈自分の考え１〉と〈自分の考え２〉の記述

| | 立場 | 自分の考え１ | 立場 | 自分の考え２ |
|---|---|---|---|---|
| A | どちらかというと疑問 | イルカや象の例から高度な知性をもっていることはわかるが、イルカや象が人間に対して話して教えられるわけではないので、筆者の主張にはどちらかというと疑問に思う。 | どちらかというと共感 | 人間のほうが高度な知性をもっているような気もするが、それが環境破壊になってしまったりしたから筆者の主張に対してどちらかというと共感できる。 |
| B | どちらかというと共感 | 高度に進化した知性をもっているのは他にもいる気がするけれど、鯨や象はもっと高度な知性をもっていると思う。鯨や象が人間と対等の知性をもっているのは信じられないけど、人間は環境破壊を起こしているから、鯨や象から「受容的な知性」を学ぶべきだと思う。 | どちらかというと疑問 | 鯨や象は人間に話すことができないから、捕らわれの身になった状況を認識しているのか、自然をコントロールしようとは思っていないだけなのか真実は分からない。だから、鯨や象が本当に「受容的な知性」をもっているのか疑問に思う。でも、人間は進化はしなければならない。 |
| C | どちらかというと共感 | 筆者は「人間の求めていることを正確に理解する」といっているが、本当に理解できるのかと疑問に思う。でも、イルカなどの動物の頭がいいことは確かだと思うし、人類は地球を危機に陥れているから、人類は鯨や象から「受容的な知性」を学び、「ガイアの知性」に進化する必要があるかもしれないと思った。 | どちらかというと共感 | 筆者は「人間の求めていることを正確に理解する」といっているが、本当に理解できるのかと疑問に思う。でも、イルカなどの動物の頭がいいことは確かだと思うし、人類は地球を危機に陥れているから、人類は鯨や象から「受容的な知性」を学び、「ガイアの知性」に進化する必要があるかもしれないと思った。 |

生徒Ａは、交流前は共感よりも疑問の気持ちが強かったが、交流後は「環境問題」に目を向けるようになったため「どちらかというと共感できる」の立場に変わったことが分かる。生徒Ｂは、交流前は疑問よりも共感の気持ちが強かったが、「イルカや象が人間に話をして教えられるわけではないので、捕らわれの身になった状況を認識しているか分からない」という考えをグループの中で発表した生徒に影響され、交流後は「どちらかというと疑問に思う」という立場に変わったことが分かる。生徒Ｃは、「自分の考え１」「自分の考え２」とも同じ記述であった。

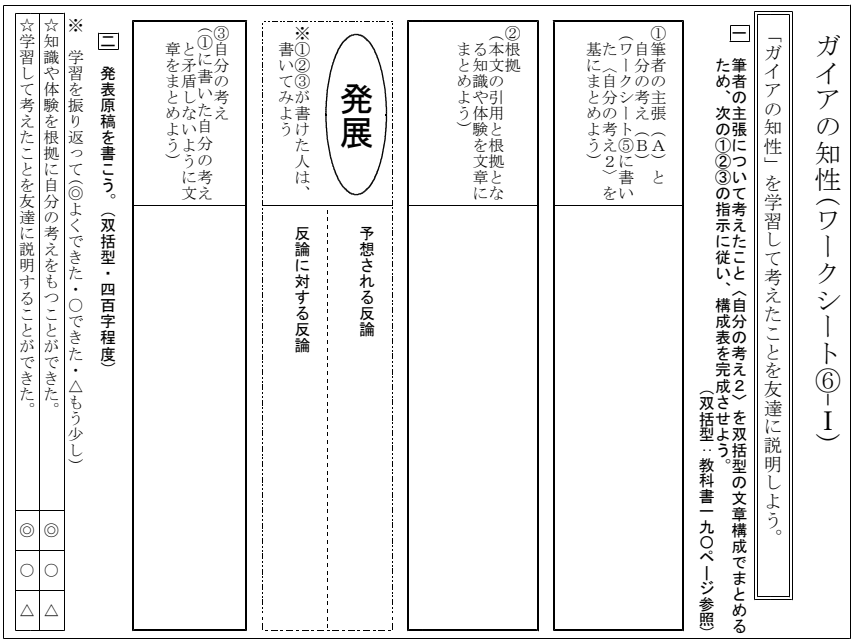
自己評価では、「考え方の交流をして自分の考えを深めることができた」について、生徒Ａ、Ｂは「よくできた」、生徒Ｃは「できた」としていた。

(1)(2)から、書き出した肯定、否定のどちらが自分の考えに近いかを暫定的に選択した上でその理由をワークシートに記述し、それを基にグループで意見交流することは、自分の立場をより客観的にとらえることができるため、根拠をもって自分の立場を選択することに有効であったと考える。

**３　考えをもつ段階において、選択した立場とその根拠となる知識や体験をワークシートに記述し、それを基に説明する活動を取り入れることは、思考の筋道を整理し、知識や体験と関連付けた自分の考えをもつことに有効であったか。（見通し３）**

## (1)　全体の記述内容から

筆者の主張について自分の考えをもつための第三段階として、自分の立場を選択させた上で書かせた「自分の考え２」を、双括型の文章構成でワークシート⑥－Ⅰ（図９）にまとめさせた。まず、「①筆者の主張と自分の考え」に、「基礎」の段階で読み取らせた筆者の主張とワークシート⑤に記述した「自分の考え２」をまとめさせた。次に、「②根拠」に本文の引用箇所と根拠となる知識や体験を書かせた。そして、「③自分の考え」にもう一度自分の考えをまとめさせた。また、論理的思考を促すための工夫として、「予想される反論」や「反論に対する反論」を記述できる「発展」の枠を設けた。その後、実際に説明するための資料として400字程度の発表原稿を作成させ、グループでの意見交流の機会を設定した。


ガイアの知性（ワークシート⑥－Ⅰ）

「ガイアの知性」を学習して考えたことを友達に説明しよう。

一　筆者の主張について考えたこと（自分の考え２）を双括型の文章構成でまとめるため、次の①②③の指示に従い、構成表を完成させよう。（双括型…教科書一九〇ページ参照）

①筆者の主張と自分の考え（ＢＡ）と（ワークシート⑤に書いた（自分の考え２）を基にまとめよう）

②根拠（本文の引用と根拠となる知識や体験を文章にまとめよう）

発展

※①②③が書けた人は、書いてみよう

予想される反論

反論に対する反論

③自分の考え（①に書いた自分の考えと矛盾しないように文章をまとめよう）

二　発表原稿を書こう。（双括型・四百字程度）

※　学習を振り返って（◎よくできた・○できた・△もう少し）

☆知識や体験を根拠に自分の考えをもつことができた。　◎　○　△

☆学習して考えたことを友達に説明することができた。　◎　○　△

図９　ワークシート⑥－Ⅰ

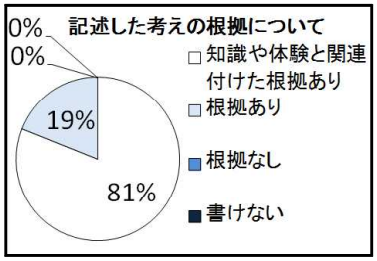



図10　ワークシートの記述

ワークシートを見ると、81%の生徒が自分の知識や体験を盛り込んで根拠を明確にした自分の考えを記述し、残りの19%の生徒も教科書の記述や自分の思いなどを根拠に自分の考えを記述しており、根拠を記述できない生徒はいなかった（図10）。

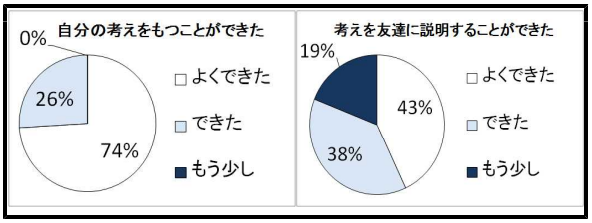



図11　自己評価

自己評価を見ると、「自分の考えをもつことができた」では、74%の生徒が「よくできた」、残りの26%が「できた」としており、全員が自分の考えをもつことができたと感じていた。また、81%の生徒が「考えを友達に説明することができた」と感じていた（図11）。

## (2)　抽出生徒の記述内容から

３人ともワークシートに400字程度の発表原稿を作成し、グループで意見交流をすることができた。

生徒Ａは、筆者の主張について疑問を感じながらも「どちらかというと共感」という立場で自分の考えを深めた文章を双括型で書いていた。生徒Ｂは、筆者の主張について共感しながらも具体例である鯨やイルカの例に疑問を感じたため、「どちらかというと疑問」という立場で考えをまとめた文章を双括型で書いていた。生徒Ｃは、「どちらかというと共感」という立場で、テレビで見た「地球温暖化に関する番組」の内容を根拠に双括型で文章を書いていた（次頁表５）。

自己評価では、「自分の考えをもつことができた」について、生徒Ａ、Ｂは「よくできた」、生徒Ｃは「できた」としていた。また、「学習して考えたことを友達に説明することができた」について、生徒Ａは「よくできた」、生徒Ｂ、Ｃは「できた」としていた。

(1)(2)から、選択した立場とその根拠となる知識や体験を組み合わせた自分の考えをワークシートに記述し、それを基に説明する活動を取り入れることは、思考の筋道を整理することができるため、知識や体験と関連付けた自分の考えをもつことに有効であったと考える。

表５　発表原稿（ゴシック体は自分の考え、下線部「 ―― 」は根拠、「 ～～～ 」は関連させた体験や知識）

| | |
|---|---|
| A | 筆者は鯨や象からさまざまなことを学び、「ガイアの知性」に進化する必要があるといっていて、**私もどちらかというと共感できます。**<br>なぜなら、人間のほうが話せたりして高度な知性をもっているような気もするが、それは「攻撃的な知性」であり、環境破壊につながっているからです。私たちが実際によく使う紙は木をもとにできています。紙を作るには木が必要です。木は森を切らなくてはいけません。こういった人間しか得にならないことを平気でやってしまうのです。また、その紙を最後まで使うのならいいけれど、少しだけしか使わずに私たち人間は捨ててしまいます。きっと筆者はこういったことを「攻撃的な知性」といいたいのだと思います。テレビで森林を次から次へと切っていく様子を見たりすると自分たちのことしか考えていないことがよく分かります。<br>このことから、**鯨や象の「受容的な知性」を人間も取り入れ「ガイアの知性」に進化する必要があるのではないかな、と思います。** |
| B | 筆者は、人間は「ガイアの知性」に進化する必要があると言っていますが、私は、共感できる部分と疑問に思う部分があります。共感できるのは、人間は環境破壊を起こしているので進化する必要があるということです。疑問に思うのは、鯨や象と人間は話すことができないので、鯨や象の知性などの真実はわからないということです。だから、**私は筆者の主張に対してどちらかというと疑問を感じます。**<br>人間と鯨や象の話す言葉が違うのは誰もが知っている事実です。だから、鯨や象が捕らわれの身になった状況を認識している、自然をコントロールしようなどとは思わない、などと言い切ることはできません。<br>人間は進化をする必要があります。しかし、鯨や象の真実はわからないので、本当に鯨や象が「受容的な知性」をもっているのか、鯨や象から知性を学ぶことによって「ガイアの知性」になるのか疑問に思います。<br>私は、鯨や象から学ぶという所が疑問に思うので、**筆者の主張はどちらかというと疑問に思います。** |
| C | 筆者が、人類は「攻撃的な知性」だけでなく「受容的な知性」の持ち主である鯨や象たちから「受容的な知性」を学んで、「ガイアの知性」に進化する必要があるといっていることに**僕はどちらかというと共感した。**<br>なぜなら僕も、筆者の言っているように、人類は環境破壊を起こし地球全体の生命を危機に陥れていると思ったからです。それから、この前テレビで、地球温暖化に関する番組を観ました。そして、南極の氷が溶けていて、そこに住んでいる動物が減ってきているなど色々地球温暖化、環境破壊の深刻さについて知ることができました。そして、それらのことについて、筆者の言っているように人類は「攻撃的な知性」だけでなく、鯨や象のもつ「受容的な知性」を学び、「ガイアの知性」に進化していく必要があるのではないかと僕は思いました。<br>だから、**僕は筆者の言っていることにどちらかというと共感できます。** |

## Ⅶ　研究のまとめ

### １　成果

○　「視野を広げる」「立場を選択する」「考えをもつ」という三段階学習を設定・実践することで、多くの生徒が根拠を明確にした自分の考えを説明できるようになり、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ力を育成することができた。

○　正確な読み取りの段階までの指導にとどまらず、自分の考えをもつ力の育成までを視野に入れた学習指導計画の提案をすることができた。

○　「基礎」では、キーワードを抜き出させたり、まとめさせたりするワークシートの工夫により、より少ない配当時間で筆者の主張について読み取らせることができた。また、それにより「発展」の時間を確保することができ、段階ごとに確認しながら自分の考えをまとめさせることができた。

### ２　課題

○　自分の知識や体験が少ない生徒は、自分の考えを述べる際に根拠を明確にすることが難しかったので、参考となる補助資料などの手だてを工夫する必要がある。

○　筆者の主張ではなく、挙げられている具体例などに疑問をもった生徒は、文章にまとめる段階で自分の立場について迷いを感じていた。自分の立場を選択するときには、筆者の主張を意識させる発問をさらに工夫する必要がある。

○　今回の研究では扱わなかったが、「文章の構成や展開、表現の仕方の面から自分の考えをもつ」という側面からの研究も進めていく必要がある。

＜参考文献＞

・長崎伸仁　編著　『表現力を鍛える説明文の授業』　　明治図書（2008）
・長崎伸仁　著　『新国語科の具体と展望』　　メディア工房ステラ（2010）
・河野順子・国語教育湧水の会　著　『入門期の説明的文章の授業改革』　　明治図書（2008）